ActiveImage™ 2022
PROTECTOR

ActiveImage Protector 2022 Nutanix AHV

エージェントレスバックアップ・復元ガイド

第 1 版 – 2026 年 11 月 25 日

Copyright Actiphy, Inc. 無断複写・転載を禁止します。

本書について

ActiveImage Protector 2022 を用いてバックアップ・リストアする参考手順を示したものです。システム・データの復旧、手順を保証するものではないことをあらかじめご了承ください。また、本書の内容は予告なく変更することがあります。基本的な使用方法は ActiveImage Protector 2022 Server/Virtual と同じです。このガイドでは AIP2022 Nutanix AHV の専用の機能を中心に説明します。

本ソフトウェアと付属ドキュメントは株式会社 アクティファイに所有権および著作権があります。

本製品、ドキュメントに使用されているすべてのブランド名および製品名は個々の所有者の登録商標もしくは商標です。
記載されているブランド名、製品名には必ずしも商標表示（TM,®）を付記していません。

目次

1. 製品構成 4
2. インストール 5
3. ハイパーバイザーの追加 7
4. エージェントレスバックアップ 9
5. 復元 16

1. 製品構成

ActiveImage Protector 2022 Nutanix AHV（以下 AIP2022 Nutanix AHV）は Nutanix AHV の環境で仮想マシン（VM）のエージェントレスバックアップを実行するための製品です。

- プロダクトキーは 1 つのみ発行されます。（複数ライセンス購入でライセンスを分けない場合）

- AIP2022 Nutanix AHV は、Nutanix AHV を構成するハードウェアに搭載している CPU の数でライセンスを購入する必要があります。
  ActiveImage Protector 2022 Nutanix AHV（2 ソケット以上）
  ActiveImage Protector 2022 Nutanix AHV（1 ソケット）

- コンソールのライセンス認証の画面では「ActiveImage Protector 2022 Virtual」と表記されます。

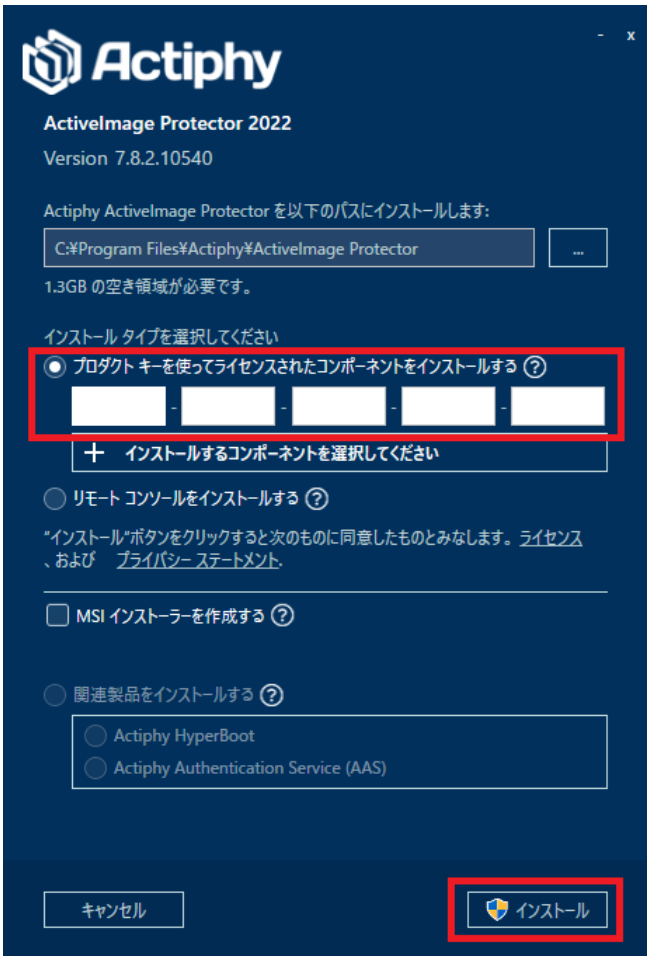
2. インストール

- 事前にアクティファイの Web から AIP2022 Nutanix AHV のインストーラーをダウンロードしてください。
  インストーラーのファイルは ActiveImage 2022 Server や Virtual とは異なります。
  インストールにはプロダクトキーが必要です。

- AIP2022 Nutanix AHV をインストールする環境を用意してください。
  AIP2022 Nutanix AHV をインストールした環境からエージェントレスバックアップを実行します。
  Windows Server 2012 R2 以降の Windows Server OS が必要です。

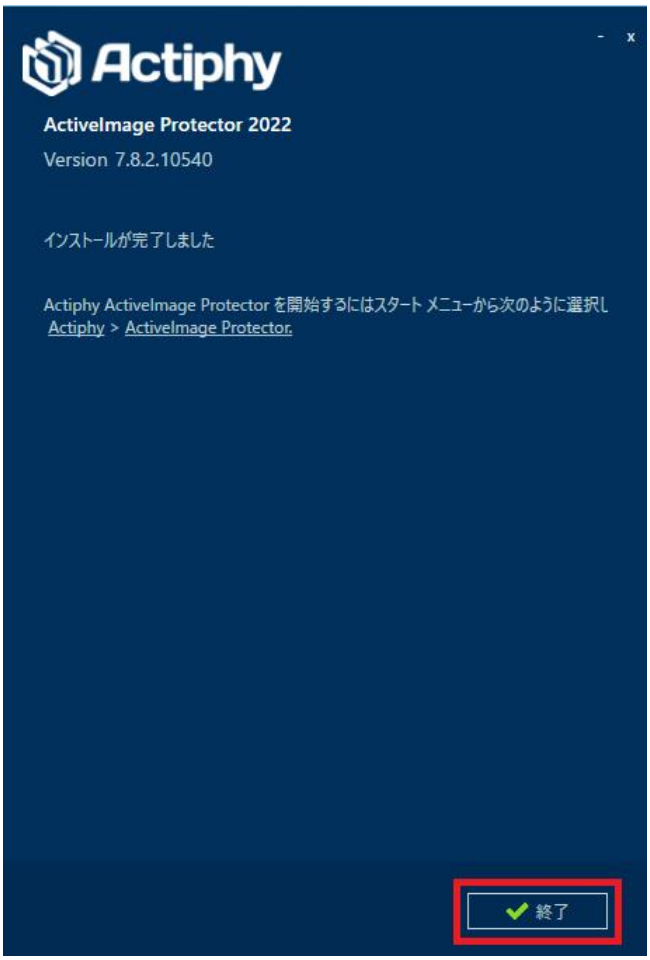
- インストールする環境は、Nutanix AHV 上で動作する仮想マシンを推奨します。

1) AIP2022 Nutanix AHV のインストーラーを実行します。



プロダクトキーを入力してから［インストール］をクリックします。

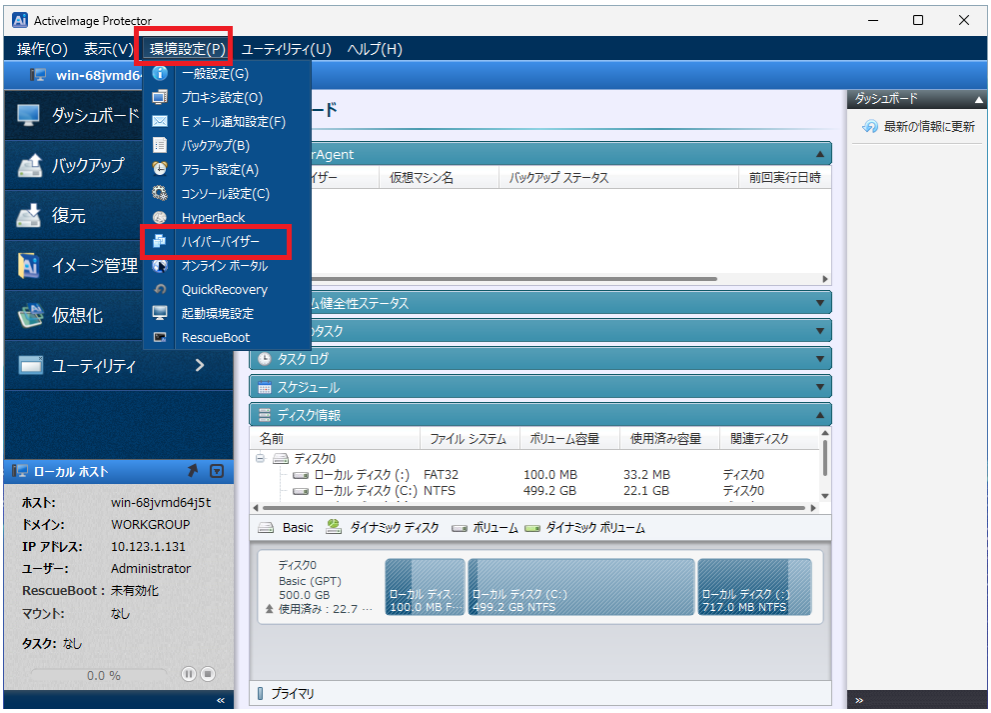
2) インストールを完了します。



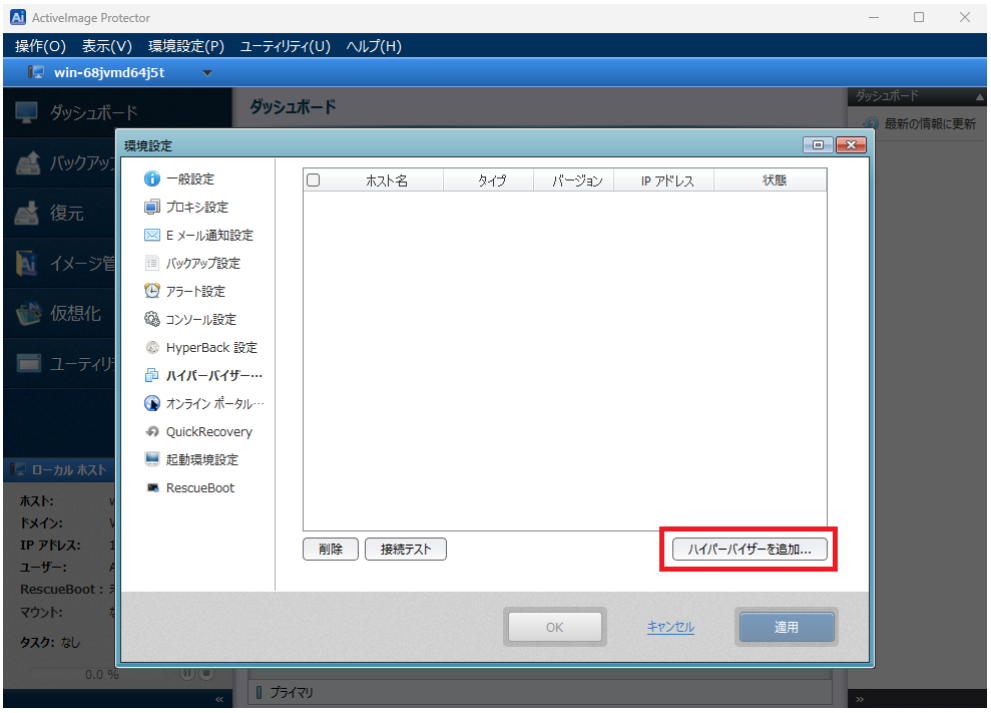
［終了］をクリックして、インストーラーを終了します。

3. ハイパーバイザーの追加

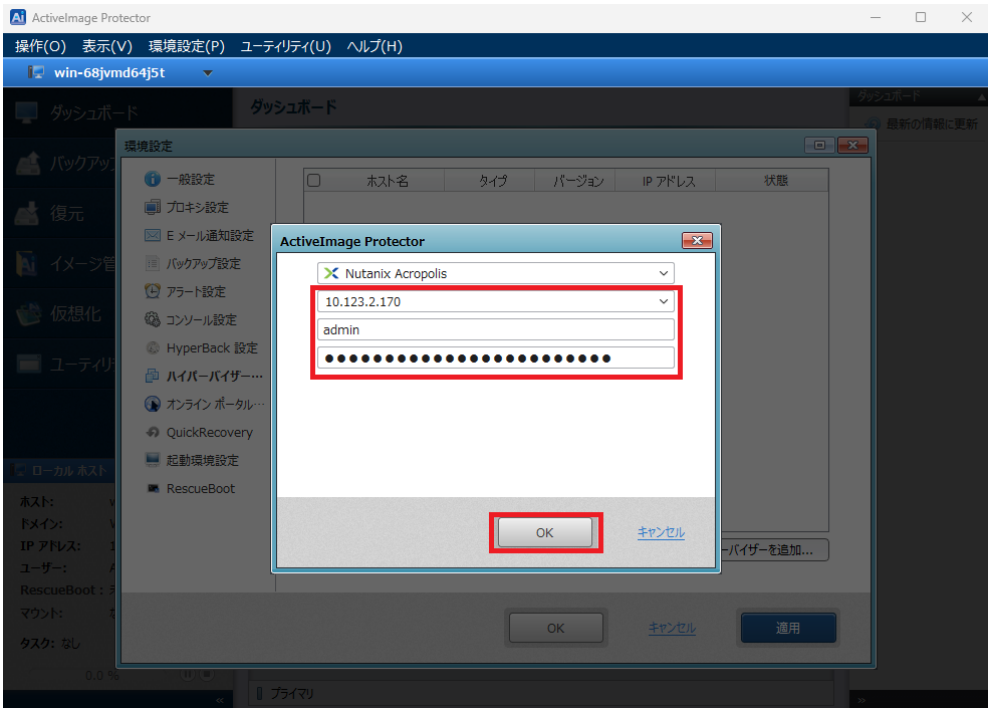
1) ［環境設定］→［ハイパーバイザー］を開きます。



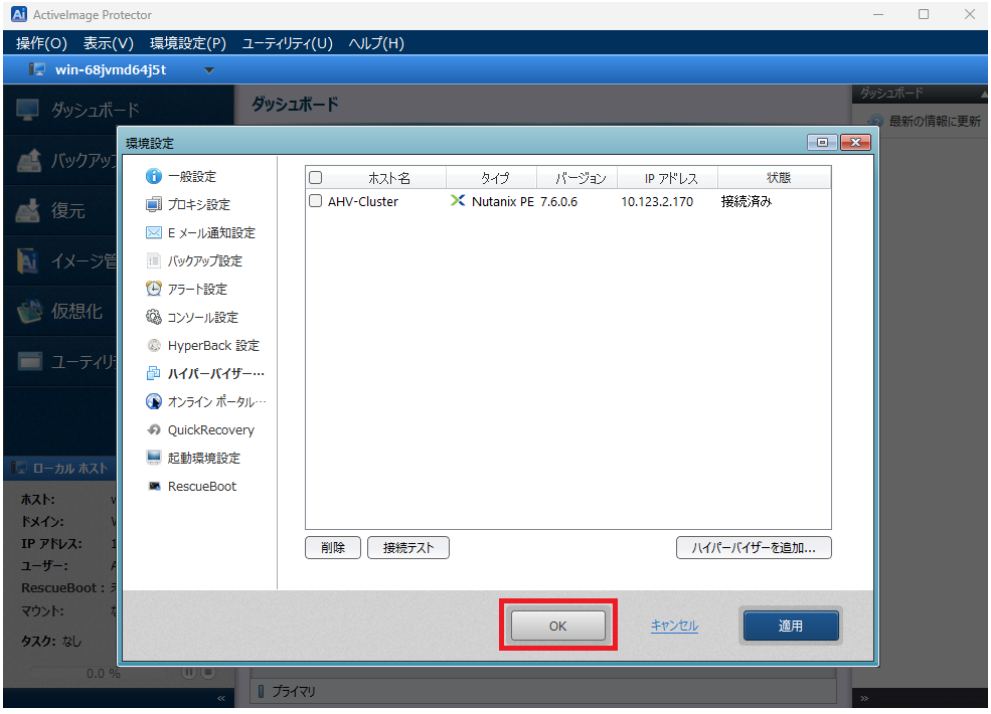
2) ［ハイパーバイザーを追加...］をクリックします。



3) ［ホスト名、または IP アドレス］に Nutanix AHV のホスト名または IP アドレスとユーザー名とパスワードを入力して［OK］をクリックします。
（ユーザー名とパスワードは Prism Element または Prism Central のサインインに使用する情報を入力してください）



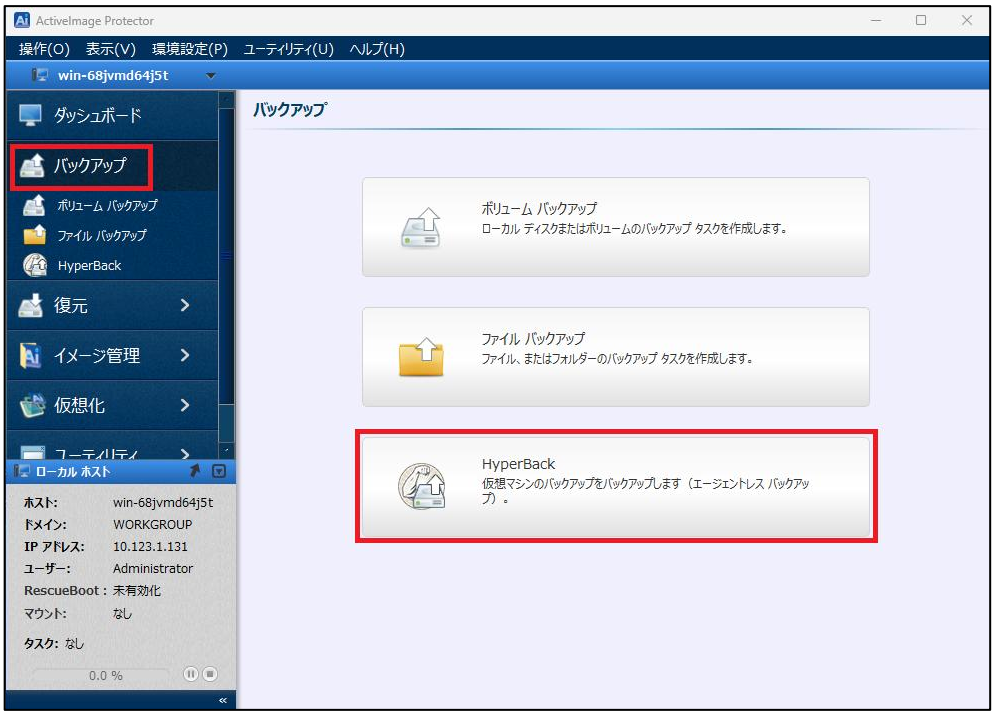
4) Nutanix AHV が追加されたことを確認します。



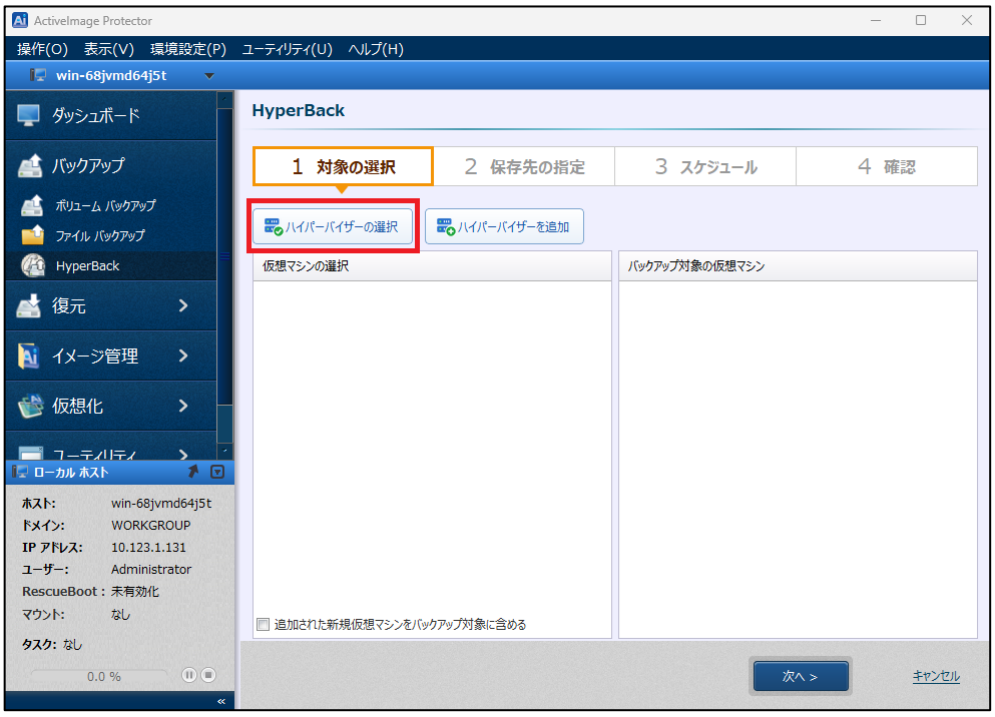
［OK］をクリックします。

4. エージェントレスバックアップ

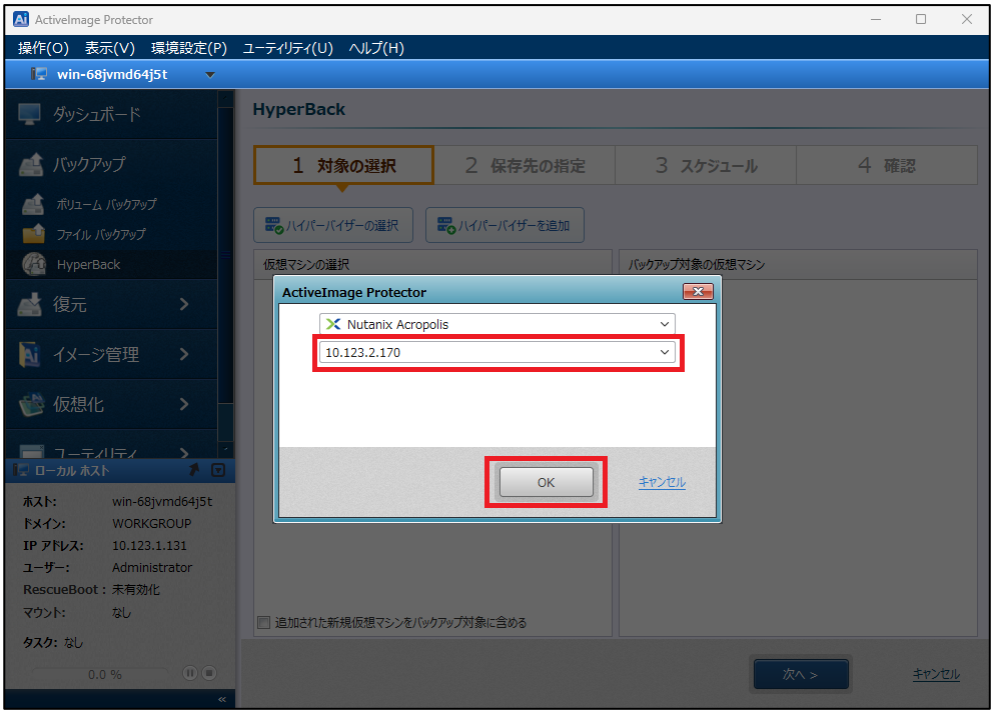
1) ［バックアップ］→［HyperBack］をクリックします。



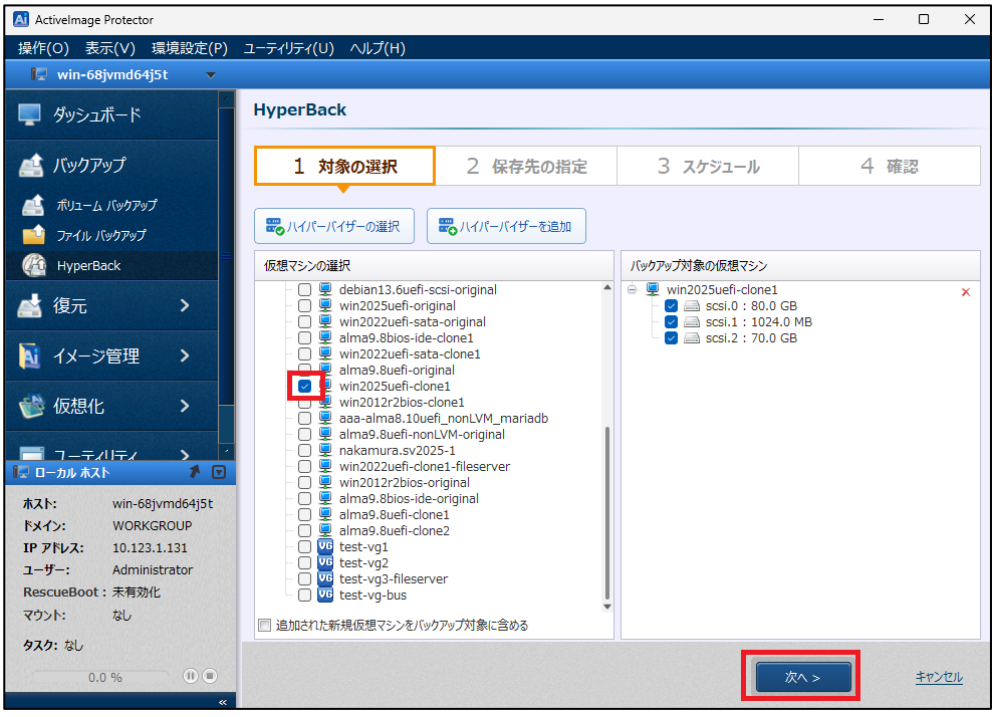
2) ［ハイパーバイザーの選択］をクリックします。
（すでにハイパーバイザーを選択している場合は、仮想マシンの一覧を表示します）



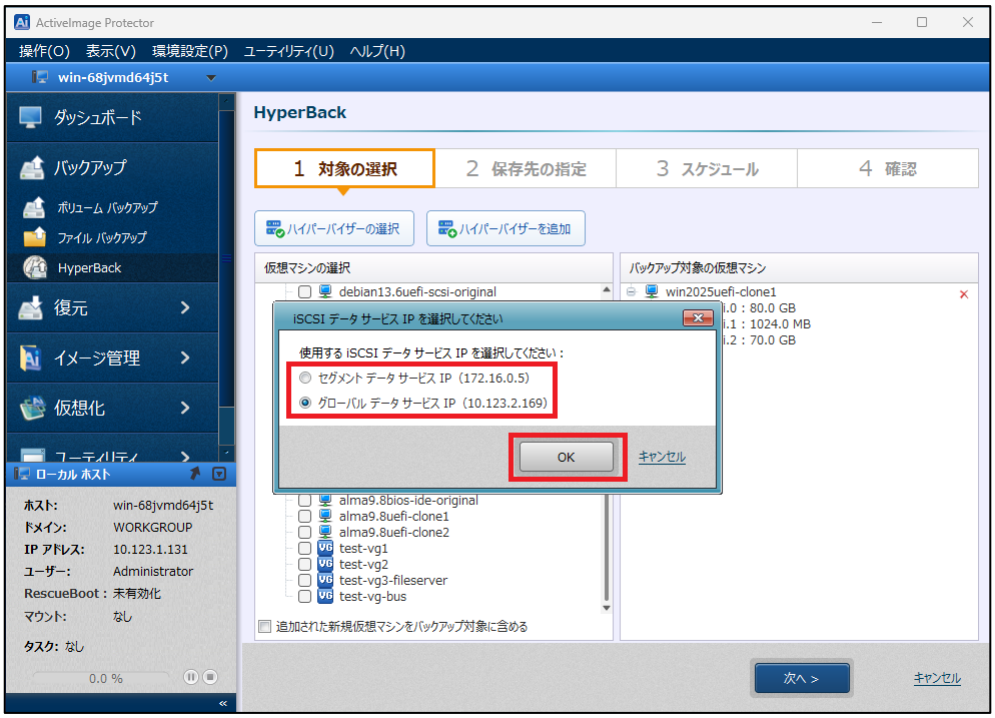
3) 追加済みのハイパーバイザーを選択してから［OK］をクリックします。



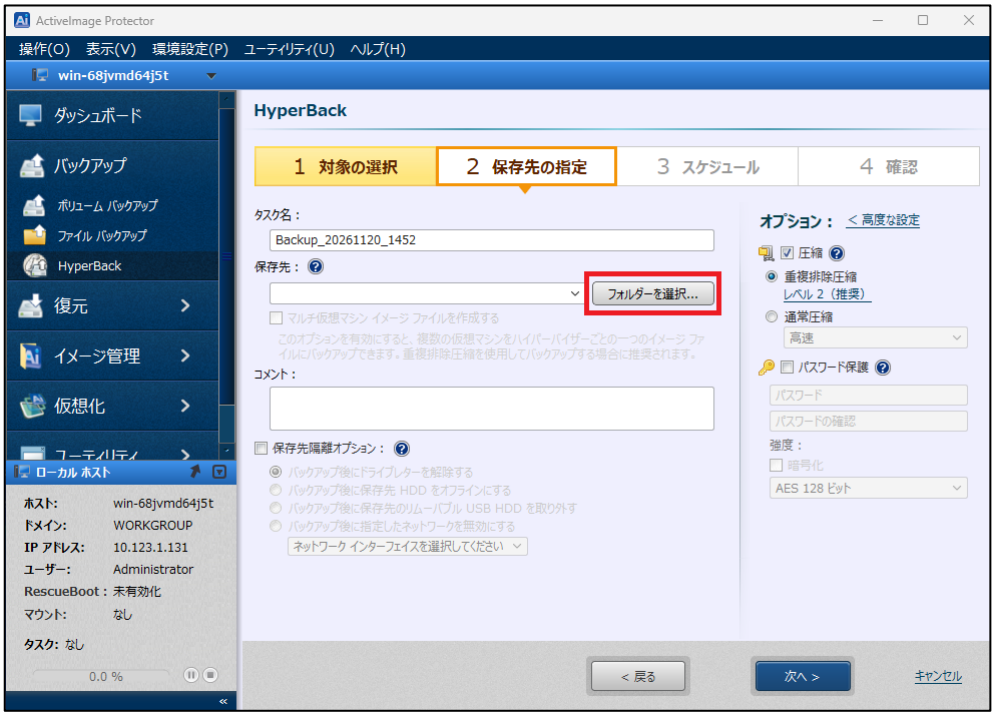
4) バックアップ対象の仮想マシンにチェックを入れて選択してから［次へ］をクリックします。



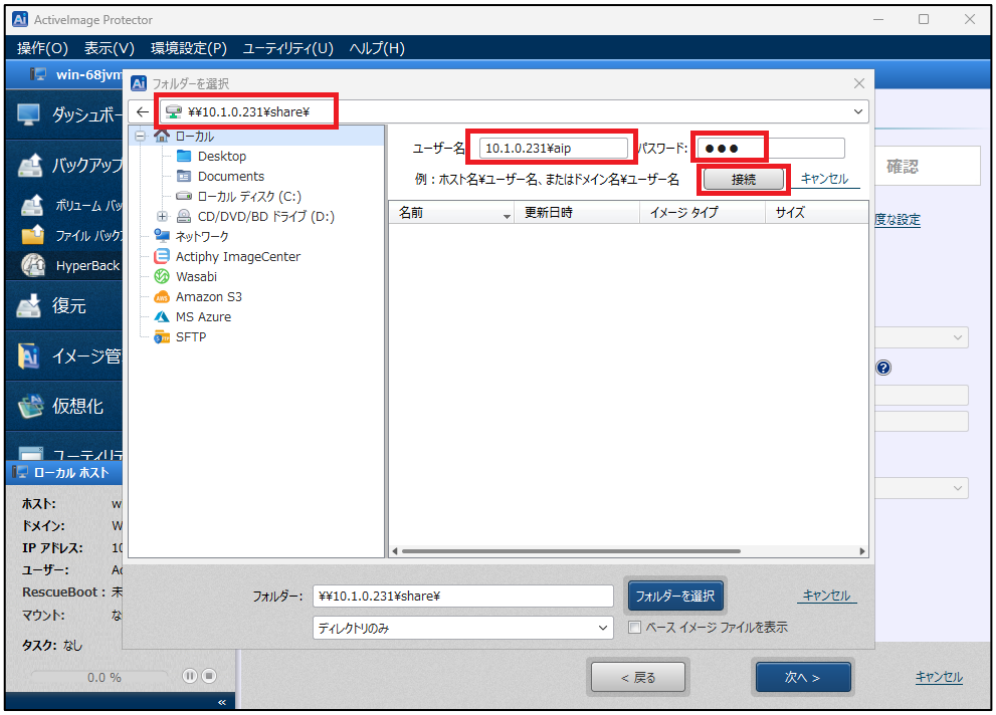
5) iSCSI データサービスを選択します。
バックアップデータを流すネットワークを選択してから［OK］をクリックします。



6) バックアップイメージファイルの保存先を指定します。
［フォルダーを選択］をクリックします。



7) 保存先を選択してからユーザー名とパスワードを入力し［接続］をクリックします。



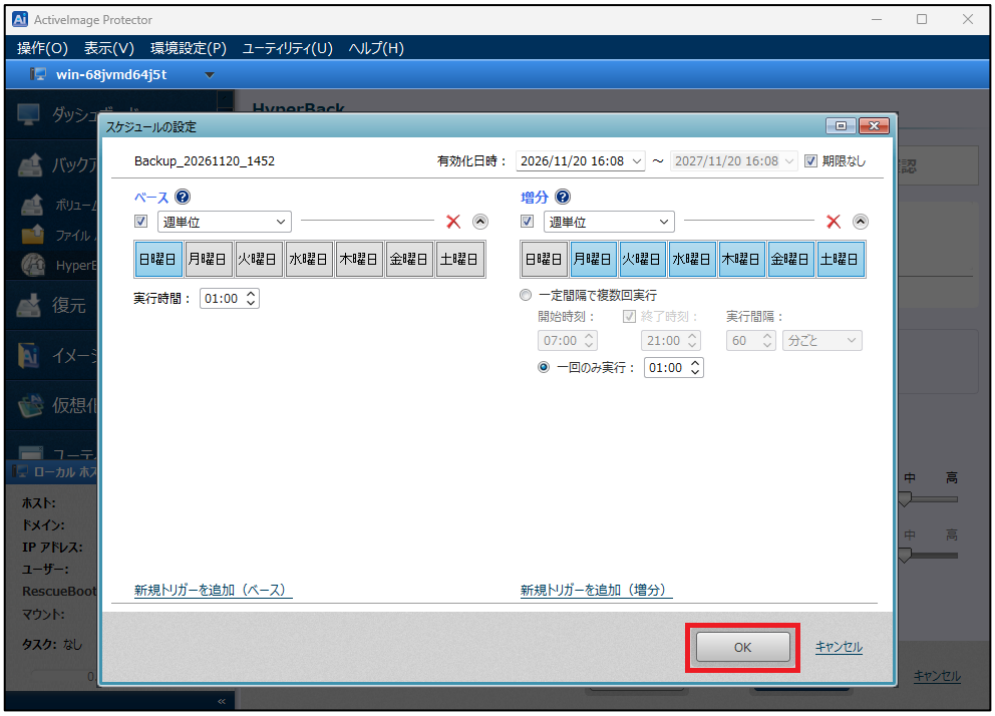
保存先への認証が通ったあとにバックアップイメージを保存するフォルダーを選択します。

8) 保存先を選択し、各オプションを設定したら［次へ］をクリックします。

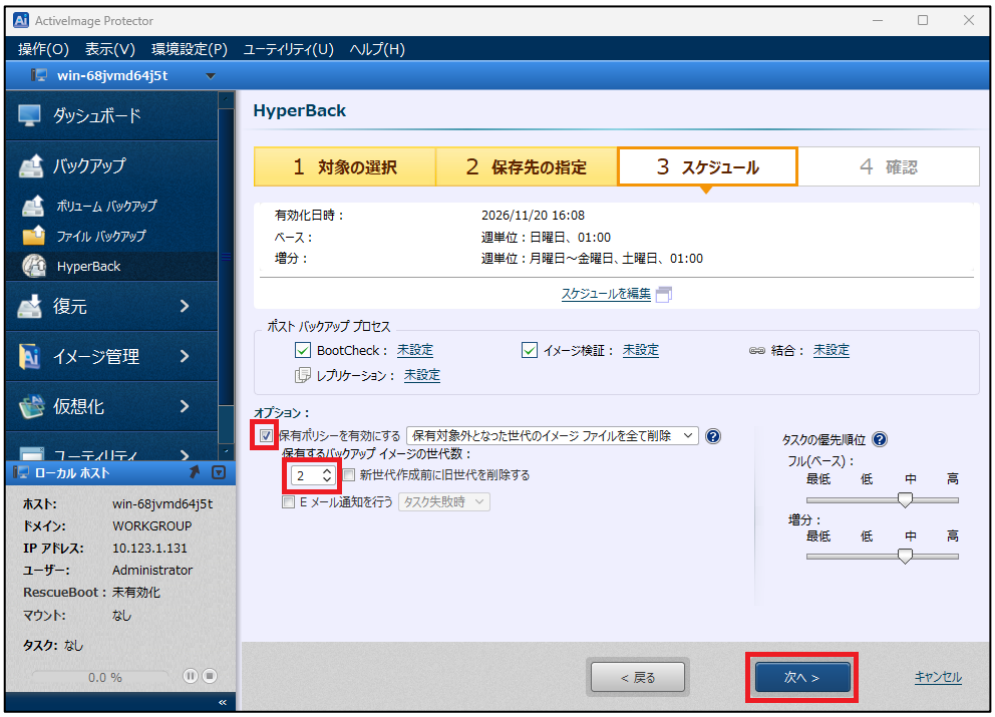


各オプションは規定値で構いません。

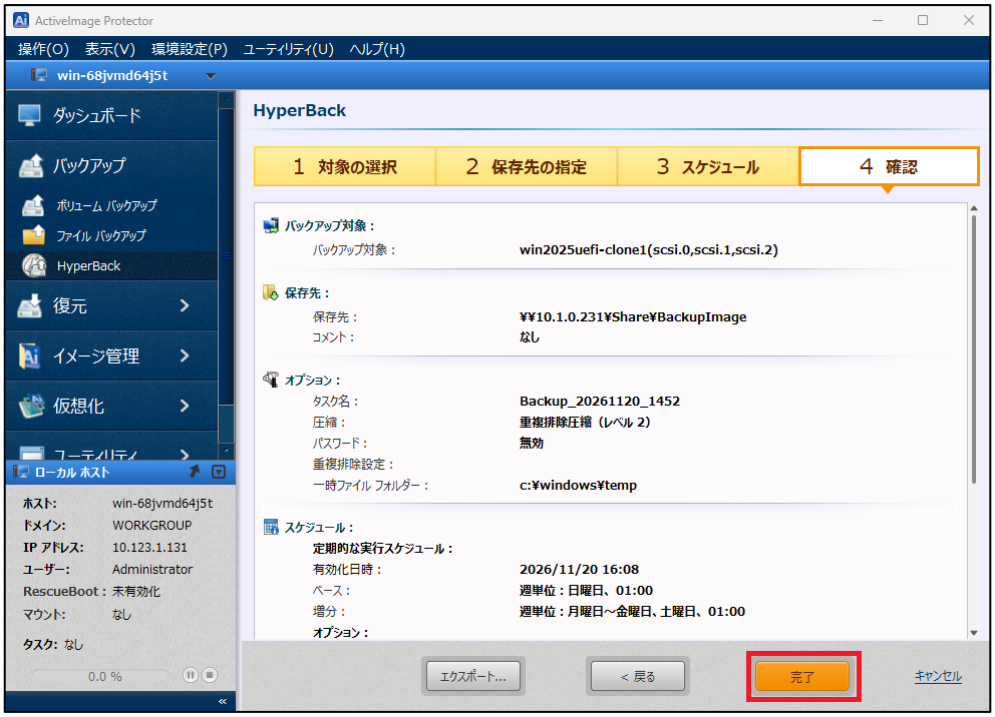
9) バックアップスケジュールを設定して［OK］をクリックします。



10) 保有ポリシーと保有する世代数を指定して［次へ］をクリックします。



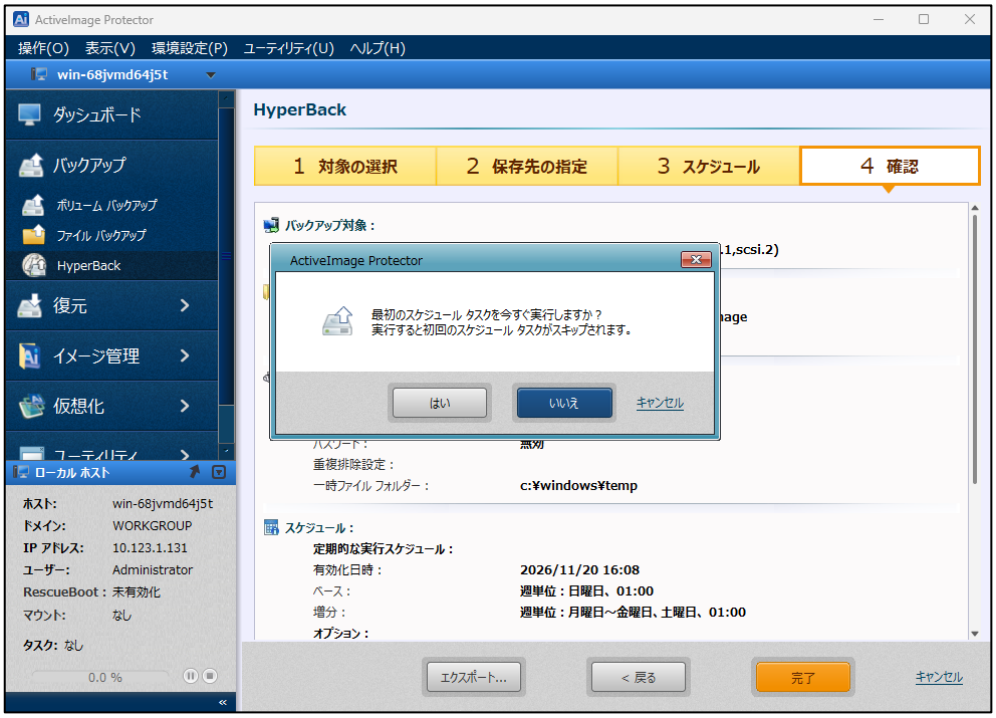
11) スケジュールの設定内容を表示しますので、問題が無ければ［完了］をクリックします。



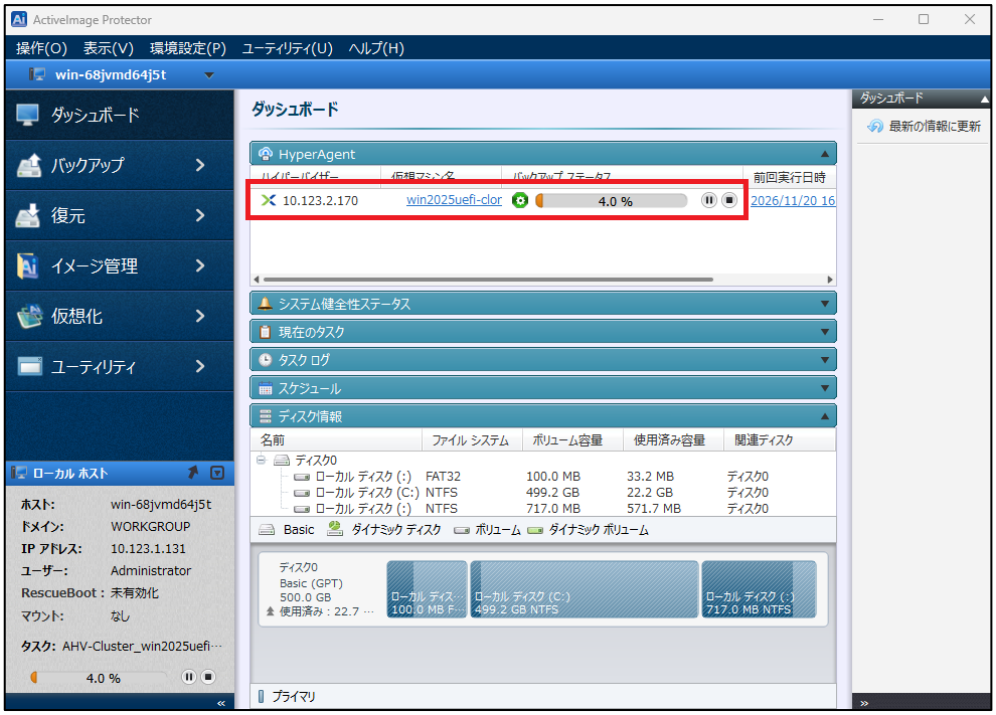
12) スケジュールの実行確認が表示されます。

今すぐ実行する場合は［はい］をクリックします。

後ほど、スケジュールの時刻で実行する場合は［いいえ］をクリックします。



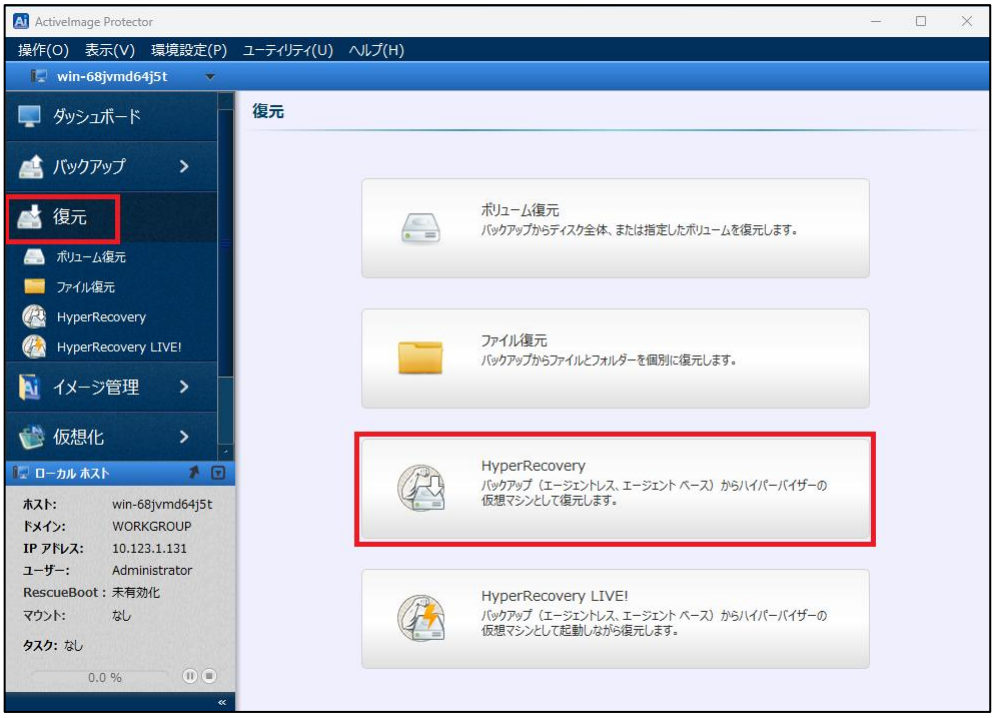
13) 今すぐ実行した場合は、バックアップタスクが実行されます。



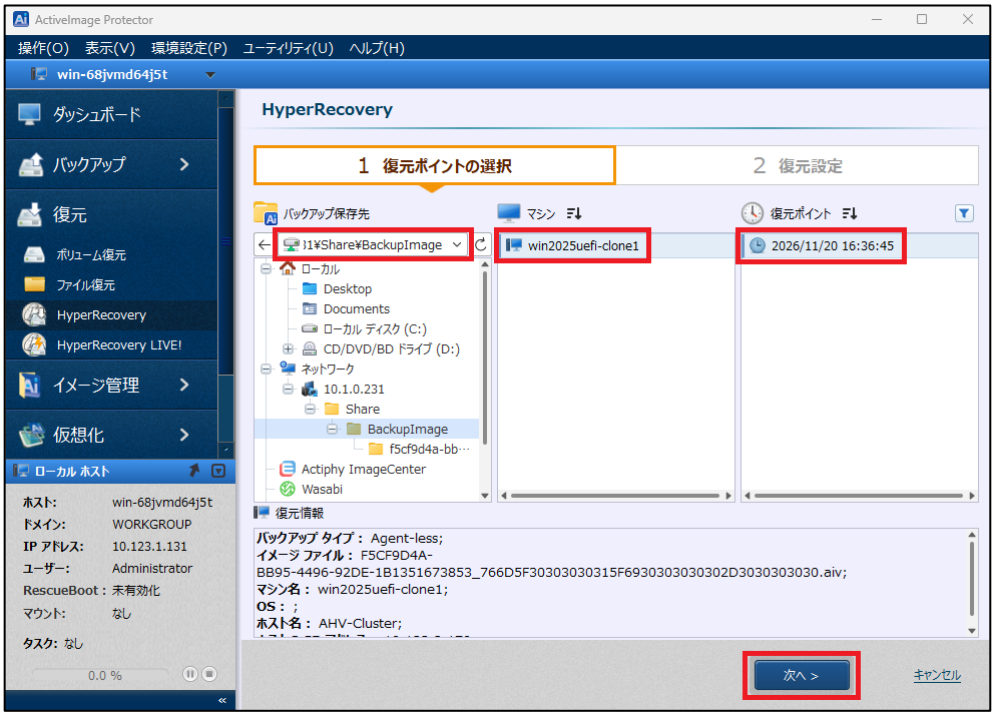
以上でエージェントレスバックアップの設定と実行は完了です。

5. 復元

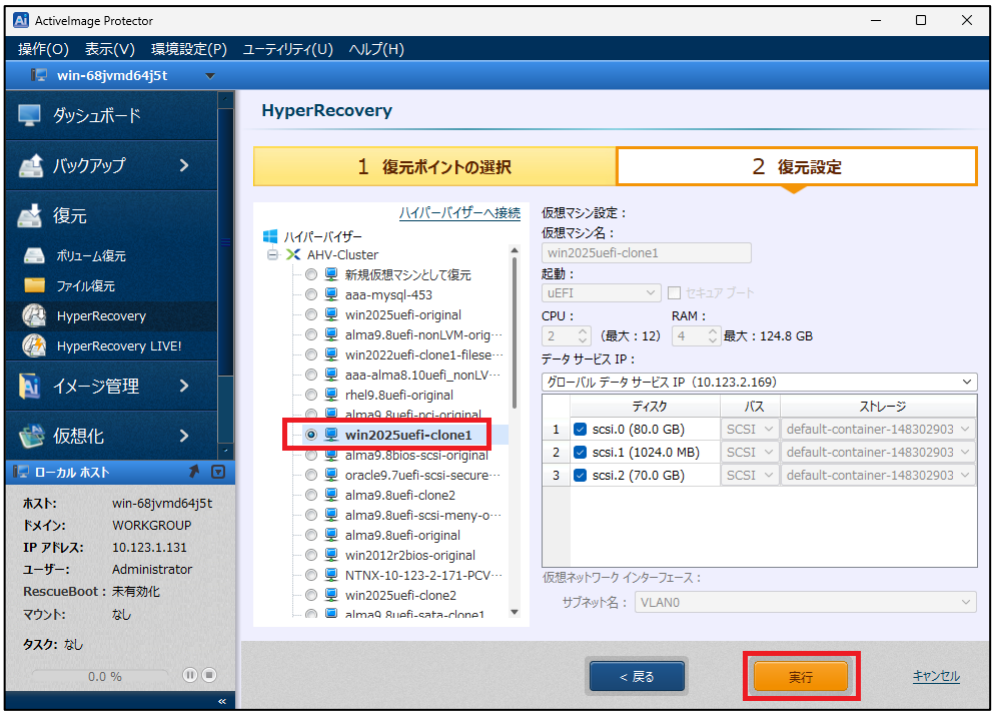
1) ［復元］→［HyperRecovery］をクリックします。



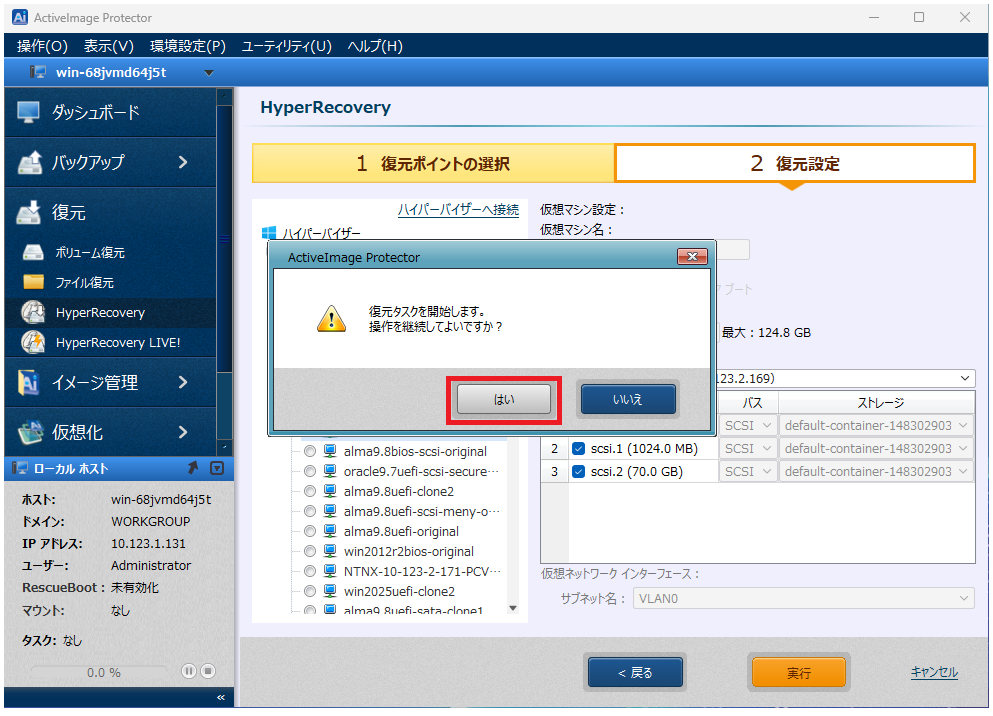
2) 復元ポイントを選択します。［バックアップ保存先］と［マシン］と［復元ポイント］を選択してから［次へ］をクリックします。



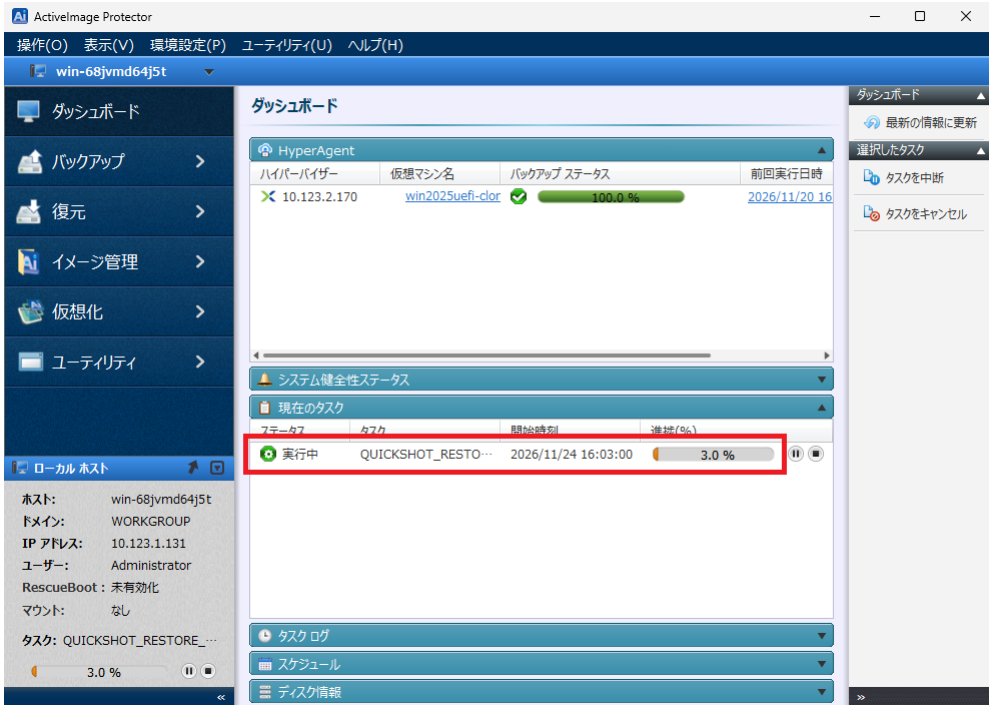
3) 復元対象の仮想マシンが存在する場合は、復元先として自動的に選択します。仮想マシンを作成して復元する場合は［新規仮想マシンとして復元］を選択します。復元先を選択したら［実行］をクリックします。



4) 確認画面が表示されますので問題が無ければ［はい］をクリックして復元を開始します。



5) 復元のタスクを実行します。



復元を完了したあとは、仮想マシンを起動して使用することができます。